

## 経営構造の変化と規模拡大が進む米国酪農

### 英国の一般紙の報道と米国農務省の報告

経営構造の変化と規模拡大が続く米国の酪農について、英国の一般紙が報道した。廃業を決断した小規模酪農家、新たに進出してきた大規模酪農家、生き残りをかけて規模拡大した酪農家に加え、大規模酪農場の労働力として定着しつつあるラテン系移民など、ウィスコンシン州のさまざまな酪農関係者へのインタビューを交えて、変わりゆく米国酪農界の姿を英紙は伝えている。2020年に米国農務省(USDA)が発表した報告書「米国酪農経営の統合(Consolidation in U.S. Dairy Farming)」では、農業センサス(Census of Agriculture)と農業資源管理調査(Agricultural Resource Management Survey、ARMS)などの調査データに基づき、全米の生乳を出荷する酪農場数(licensed dairy herds)の減少、一戸当たりの乳牛飼養頭数の規模拡大に加え、飼養頭数規模が生産コストに与える影響の分析から、米国の酪農経営は飼養頭数規模が大きいほど利益を得やすい構造となっていることを報告している。USDAの今年2月の発表でも酪農家数は2020年も大きく減少した。本稿ではこれらの報道とUSDA報告書の分析について紹介する。

#### 米国の酪農地帯では毎日のように小規模農場が消滅している

英ガーディアン紙は7月21日付電子版で、米国ウィスコンシン州の酪農現場の実情を関係者への次のようなインタビューとともに伝えた(\*1)。

廃業への苦渋の決断をした50代半ばの小規模酪農家の男性は、年金の代わりにもするため64頭の搾乳牛を競売にかけたところ、期待していたよりも良い値段で地域の小規模農家らが購入してくれたことに感謝した。一方でより小規模の肉牛農家へと移行した後、以前よりも静かになった牛舎に男性は寂しさを感じている。

また、新たに進出してきたカリフォルニア州に起源を持つ大規模酪農家が、地元の農家や住民との間で摩擦を生じさせていることを伝えている。酪農家は、地元の人々の不安を理解はしているが、気になっているのは農場が家族経営ではなく企業であるかのように見られていることだという。重要な点は、乳牛の飼

養管理が彼らの成功の要因であり、多くの農場は従来の方を続けることで成長の機会を逃しているという。

さらに経営の存続のために搾乳牛を400頭以上に拡大した5代目酪農家を紹介している。酪農家は生乳を小売用チーズの製造加工業者に販売することで、コロナ禍の影響を回避できた。経営状態の良いときでも利益率は10%程度であり、飼料コストや輸送コストが高騰すれば、利益は出なくなってしまう。時代に合わせて変化が必要であることは、どの業界でも同じであり、現実には厳しい。常にギャンブルをしているような状況だが、酪農家として希望を持ち続けることが大切だという。

#### ラテン系移民が酪農の労働力となり、米国酪農界の人口構成を少しずつ変化させている

英ガーディアン紙は7月25日付電子版でも、ウィスコンシン州の酪農現場の様子を再び伝えた(\*2)。

白人の多いモンロー市でも、酪農現場の労働力として働くために移住してくるラテン系の人々が増加しており、その人々の交流拠点となっている商店を営む夫妻や移住者たちにインタビューしている。

何千頭もの乳牛を飼育する大規模酪農場では 24 時間体制で搾乳が行われ、それに伴い必要な労働力も増加している。ウィスコンシン州の外国人人口は、2000 年以降 45%増加し、農村部では最も増加している。酪農場の仕事は年間を通じて常にあり、作物の生産現場のような季節的な移動がないため、労働者は定住することができる。労働条件は厳しいが、生活に必要な収入を得て地域でラテン系のネットワークを築く。酪農のあり方の変化は、米国の酪農地帯の人口構成を少しずつ変えている。

### USDA 報告書による問題点と課題の整理

2020 年に発表された USDA 報告書「米国酪農経営の統合」(\*3)では、酪農経営の生産構造の変化(小規模酪農家の減少と経営を継続する酪農家の規模拡大)に関する現状と課題を以下のように整理している。

近年、酪農場の閉鎖が広く報道されるようになった。中小規模の酪農家は、財務上の大きな課題に直面している。2018 年には、乳価が下落し乳価と飼料コストの差が縮小した。業界では農場閉鎖の波が北東部と中西部の多くの伝統的な酪農州を襲い、2017 年～2019 年の間に生乳の販売認可を受けた酪農場の数は 15%減少した。

2018 年に議会はこうした財務上の課題に対処するため、小規模経営に主眼を置き、酪農家への支援を拡大した。2018 年超党派予算法、およびその後の 2018 年農業法において、議会は酪農家に請求される保険料を再構築

し、酪農マージン保証プログラム(DMC)と改称して主要な連邦酪農支援プログラムの適用範囲を拡大し、その他の酪農関連プログラムにも調整を加えた。これらの変更により、酪農家支援のための連邦支出が大幅に増加することが予想される。

この報告書は、米国酪農の構造的・地理的な変化について詳細に説明し、構造的・地理的な変化をもたらした財務上・生産上の要因を明らかにし、これから先の変化の見通しを検討している。

### USDA 報告書による調査結果と分析

この報告書では、調査結果と分析について以下のように説明している(\*3)。

・1987 年、米国の乳牛の半数は 80 頭以上の牛群で、また半数は 80 頭以下の牛群で構成されていた。それ以来、農場規模の中央値は一貫して上昇しており、2017 年には 1300 頭となった。酪農における経営構造の変化のペースは、米国の他の農業作目のペースをはるかに上回っている。

・2017 年の農業センサスでは、乳牛を飼育している農場は 5 万 4599 戸を数えた。そのうち、3 万 373 戸が乳牛 10～199 頭の商業的な小規模酪農家だった。商業的な小規模酪農家の数は、10 年前(2007 年)の 4 万 7873 戸、30 年前(1987 年)の 14 万 6685 戸と、時の経過とともに大幅に減少している(注:「商業的」とは、趣味や自家消費のために家畜を飼養するホビーファームや自給自足農家を除いた牧場で、生乳の販売で所得を得る酪農家を指す)。

・2017 年には、約 2000 戸の農場が 1000 頭以上の乳牛を飼育しており、それらの農場が米国の乳牛の半数以上を搾乳していた。25 年前には、このような農場は 500 戸程度しかなく、搾乳頭数は全体の 10%にも満たなかった。時

が経つにつれ、生乳生産は 5000 頭以上の大規模農場にシフトしていった。

・北東部と中西部の主要な酪農州では、以前から商業的な小規模酪農家が多く、西部の主要な酪農州では、大規模農場を中心に生産が行われてきた。どの州でも生産は大規模なものに移行しているが、商業的な小規模酪農家の減少は中西部と北東部に集中しており、特にミネソタ州、ニューヨーク州、ペンシルバニア州、ウィスコンシン州の 4 州に集中している。

・酪農場の統合の背景には、強いコストインセンティブがある。大規模酪農場は、小規模酪農場よりも平均生産コストが大幅に低い。このコスト面での優位性は、2000 頭の酪農家が 1000 頭の酪農家よりも低いコストを実現し、さらに 500 頭の酪農家よりも低いコストを実現するというように、規模の大小によって格差が広がっている。

・同じ程度の規模であっても他に比べ利益を上げている農場もある。牛群の規模はコストと収益の強力な決定要因であるが、狭い範囲の規模の違いであっても、農場によってコストや純収益に大きな違いがある。天候、立地、物理的なインフラ、そして経営がそれぞれ酪農場の財務実績に影響を与えている。

・2016 年、有機認証を取得している酪農場は、同規模の従来型の酪農場よりも 100 重量(cwt、100 ポンドの生乳)あたりの純利益が高いことがわかった。100~199 頭以上の有機酪農経営や、2000 頭以上の従来型の大規模酪農経営では、平均してプラスの純利益が得られた。ただし、従来型の酪農から有機酪農への経営転換には大きなコストがかかる。

・総収益が総費用を下回っている農場の多くは、資本費用以外のコストをすべて賄っていれば、経営者は他の事業よりも酪農で生計を

立てやすいため、経営を継続できる。したがって、酪農家の離農は何年もかけて徐々に行われるものであり、整理もまた徐々に行われる。

・米国では生乳生産量が増え続けているにもかかわらず、生乳販売許可を受けた乳牛群の数は 2002 年~2019 年の間に半分以上減少し、2018 年から 2019 年にかけて減少率が加速している。この動きは今後も続くだろう。酪農家の財政は依然として大規模経営に有利であり、今日では小規模酪農家は減少しているものの、高齢化が進み多くの経営者が引退の年齢を迎えようとしている。過去の傾向と本報告書で作成したモデルに沿って、農場数が年 4%の割合で減少し続けた場合、2019 年の 3 万 4187 戸から 2021 年末には約 3 万 1500 戸の酪農場になると予想される。

## 2020 年も酪農場数は大きく減少

USDA の農業統計局が今年 2 月に発表した「生乳生産(Milk Production)」(\*4)によると、生乳販売認可を受けた酪農場の数は 2019 年に比べて 2020 年は 2550 戸減少し、全米で 3 万 1657 戸となった。ウィスコンシン州は全米で最も減少し、610 戸の減少となった。続いてミネソタ州、ペンシルバニア州、ニューヨーク州、オハイオ州で、それぞれ 380 戸、300 戸、240 戸、195 戸の減少となった。

米国最大の農業団体である米国農業連合会(American Farm Bureau Federation)は、この USDA の発表について、最近酪農場の減少が加速しているのは、乳価の低い条件下で酪農を営むことがいかに難しいかを映しており、酪農家は 2014 年末以降の低い乳価に加え、業界は新型コロナの感染拡大による混乱に見舞われている中で、以前よりも乳価の変動が大きくなり、リスク管理に有効な手段は限られていることをホームページのマーケット情報で

伝えている(\*5)。

**参考資料:**

- 1) <https://www.theguardian.com/environment/2021/jul/21/small-farms-vanish-every-day-in-americas-dairyland-there-aint-no-future-in-dairy> Small farms vanish every day in America's dairyland: 'There ain't no future in dairy'. The Guardian. July 21, 2021.
- 2) <https://www.theguardian.com/environment/2021/jul/25/its-five-years-since-a-white-worker-applied-the-immigrants-milking-americas-cows> 'It's five years since a white person applied': the immigrant workforce milking America's cows. The Guardian. July 25, 2021.
- 3) <https://www.ers.usda.gov/webdocs/publications/98901/err-274.pdf?v=2909.5> Consolidation in U.S. Dairy Farming. United States Department of Agriculture. July 2020.
- 4) <https://downloads.usda.library.cornell.edu/usda-esmis/files/h989r321c/br86bx43m/7p88d932r/mkpr0221.pdf> Milk Production. United States Department of Agriculture. February 23, 2021.
- 5) <https://www.fb.org/market-intel/usda-report-u.s.-dairy-farm-numbers-continue-to-decline> USDA Report: U.S. Dairy Farm Numbers Continue to Decline. American Farm Bureau Federation. February 26, 2021.

(資料閲覧:2021年8月30日)

(Jミルク 国際グループ 新 光一郎)